

二〇一九年二月二〇日

紙漉女水と心を通はせて

宏 虎

セーターは深紅や手術決めし友

こすもす

杉木立直立不動山眠る

はく子

寒林の疎なる梢に北斗見ゆ

愛 正

二〇一九年二月一九日

しぐるるや宿場名残の深ひさし

菜 々

袖合はす山のあひより冬の靄

明日香

葉の落ちて天展けたる冬木立

宏 虎

ゆるキャラもサンタの帽子クリスマス

たか子

身じろがず石と見まごう寒の鯉

愛 正

二〇一九年二月一八日

街ひとつ抱え込みたる冬の虹

素 秀

野地蔵の豊頬撫ぜる風小春

ぼんこ

雨読子に徹すひと日や年の暮

菜 々

二〇一九年二月一七日

祝い膳並べし卓に冬日燦

たか子

未枯れし物も彩り鄙の郷

たか子

寒禽の鋭声に覚むる山泊まり

せいじ

二〇一九年二月一六日

ポインセチア窓ごとに置く校舎かな

素 秀

薄ら日を集めてをりし蜜柑山

たか子

二〇一九年二月一五日

帰り花何かいいことありさうな

みづき

消灯の小児病棟聖樹の灯

素 秀

枯蓮の一の田二の田総崩れ

うつぎ

二〇一九年二月一四日

あるがまま晒しきつたる枯蓮

うつぎ

鄙びたる山家を訪へば忘れ花

たか子

枯蓮の池面鉛のごときかな

満 天

毎日句会みのる選・二〇一九年二月二三日